

おうばいとうり 桜梅桃李

～あなたと共に歩いていきたい～



レインボーさいたまの会

埼玉県の木、欒(けやき)をモチーフに性の多様性のシンボルであるレインボーカラーに染めてみました。親睦を深め、調和を持ち、議論を重ねていくことを大切にしていきたいですね。木陰でひと休みもいいものですよ。

埼玉県

埼玉県は、40の市、22の町、1つの村の63の市町村から構成されています。人口約730万人が生活しています。LGBT調査2018(電通ダイバーシティ・ラボ)の計算で8.9%とした場合、約65万人がLGBT当事者となります。「我が街には当事者はいない」のではなく、顕在化された問題であり、今後も積極的に取り組むべき人権問題であることを改めて確認していきます。



桜梅桃李に寄せて

上の写真、なんだか似ているような、そうでもないような。「おうばいとうり」、、、なかなか聞き慣れない四字熟語でしょうか。書き手としては、学もなければ、本もあまり読まず。「偉そうな奴め」とお叱りを受けるかも知れませんね(笑)。この題に込めた思いから、先ずお話ししていきましょう。高校時代に恩師から教えて頂いた言葉の一つとして、「桜には桜の、梅には梅の、桃には桃の、李(すもも)には李のそれぞれの良さがある。同じように人にもそれぞれ名前は違うけれど、それぞれの良さがどんな人にもある。自分の良さを磨き、人の良さにも気が付き、互いを認めていくことで社会は良くなる」というような話を聞きました。私たちが直面している課題に対し、それぞれの解釈や手法などがあります。しかしながら、お互いの良さに気が付き、認め合うことで課題を克服するエネルギーに変えられるのではないかと思います。批判ばかりではなく、愛をもって次のステージに進められることを切に願います。



～ワタシのつぶやき～

共同代表 鈴木 翔子



私は小さい頃から違和感を抱えながらも、自分がLGBTQ当事者と呼ばれる人間であるということに気がつくのに、とても時間がかかりました。私の育った町には、同性パートナーシップ制度はありませんでした。学校でも「性自認・性指向は人それぞれである」ということを教えてはくれませんでした。私のような人間は「居ない」事になっていたように思います。私はこれから生きる子ども達には、性的にマイノリティーだったとしても、ただその子がその子らしく暮らせる未来を生きていってほしいと思っています。

事務局次長 かんなり



私がLGBTに関心を持つようになった最大のきっかけは、「トイレ問題」です。そこをきっかけに、「虹色の式典」のボランティア、実行委員を経て、「レインボーさいたまの会」に所属して活動する事になりましたが、分からないことがいっぱいすぎて、ついていくのも覚束ない状態にいます。

まだまだ、勉強不足の面は否めませんが、せっかく持っている社会保険労務士の資格も活かした形で今後関わりを持っていければいいな、と思っています。

事務局次長 Toshi



社会なんて変わらないと思ってた。2018年6月に川越市議会で、パートナーシップの請願に対して採決をされたことをこの目で見て震えた。いつか誰かがどうにかしてくれるものって思っていたけれど。

左の写真は狭山市駅西口で署名活動や広報活動を日々している場所。「実は自分も当事者です」「ラジオに出てみませんか?」「一緒に署名集めるよ」「お茶どうぞ。。。たくさんのあたたかい言葉と気持ちを頂いた大切な場所。

社会なんて変わらない? 答えはNoだ!

☆☆☆編集後記☆☆☆

雨が多いですね。。雨が止んだら、空に虹の橋が架かっていたらいいのだけれど。雨はいつか止む。そして晴れもいつか曇って、また雨が始まる。そんな繰り返しの中で、生かされている。どうせ生きるならば、もっと。。のんびりとした時間の流れを感じて生きたいかも。ゆっくりしよっと。Toshi